

平成24(2012)年度社会福祉法人あかつき福社会  
事業報告書

社会福祉法人あかつき福社会

# 1. 平成24(2012)年度全体概要報告

## <短期入所の定員拡大>

4月、「箕面市障害者ショートステイ室（短期入所・日中一時）」をライフプラザから瀬川地区に移転し、定員を3名から8名に拡大して運営を始めて障害者市民の要望に応えるとともに、あかつき園・ワークセンターささゆりとの一体的な運営を図っていく体制を確立した。

延べ利用者数	: 2,591人	*平成23年度: 1,482人
1日あたり平均利用者数	: 7.0人	*平成23年度: 4.1人

## <利用者ニーズの収集>

7月、箕面市が箕面市立障害者自立支援センター（箕面市立あかつき園・箕面市立ワークセンターささゆり）、箕面市立障害者福祉センターささゆり園の利用者サービス内容満足度等のアンケート調査を実施し、併せて、あかつき福祉会独自に地域生活総合支援センター、わんすてっぷの利用者アンケート調査を実施し、今後の施設運営に資する利用者ニーズの収集を行った。

## <預金の有効活用>

8月、現在あかつき福祉会が保有する6億円余の預金のうち2億5千万円を国債に投資し、毎年200万円以上の利息収入が得られる債券運用を開始した。

第62回国債	: 1億5千万円	*満期までの残存年数約10年
第138回国債	: 1億円	*満期までの残存年数約20年

## <喀痰吸引等業務を提供できる介護職員等の養成>

9月、箕面市委託事業である喀痰吸引等研修を、平成25年2月にかけて計4回実施した。延べ69名が基本研修を受講・修了し、地域で暮らす重度障害者市民等に対し、喀痰吸引等業務を提供できる介護職員等の養成を行った。

第1回: 平成24年 9月29日~30日	第2回: 平成24年11月24日~25日
第3回: 平成24年12月15日~16日	第4回: 平成25年 2月23日~24日

## <障害者虐待防止法施行への対応>

10月、障害者虐待防止法が施行され、法人全体で人権研修を実施して法律の周知・理解を深めるとともに、各施設・事業において、箕面市障害者虐待防止センターと連携して様々な対応を行った。

【平成24(2012)年度実施事業等】

1. 法人本部(総務課)

2. 箕面市立あかつき園〈指定管理〉

- 【実施事業】①自立訓練(生活訓練)事業 定員10名  
②就労継続支援B型事業 定員10名

3. 箕面市立ワークセンターささゆり〈指定管理〉

- 【実施事業】生活介護事業 定員60名

4. わんすてっぷ

- 【実施事業】生活介護事業 定員15名

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園〈指定管理〉

- 【実施事業】①園管理運営事業 ※社会福祉増進事業含む  
②生活介護事業 定員20名  
③日中一時支援事業(放課後教室)  
④施設入浴サービス事業

6. 地域生活総合支援センター

- 【実施事業】①共同生活援助・共同生活介護事業  
(第2つながりの家、第9つながりの家)  
②短期入所・日中一時支援事業  
(箕面市障害者ショートステイ室)  
③居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業  
(ヘルパーステーション「ウイズ」)  
④相談支援事業  
(ウイズ)

## 2. 総務課

### (1) 概要

- 新設した事務局長、新たに採用した総務課長による新体制の下、法人経営の幹となる総務部門の強化を行い、法人全体に関わる各種契約・ルール・運用などの見直しを図った。
- 今年度は、労働組合対応や過去の労務管理が徹底できていなかったことから派生した課題の解決、今後の事業運営を見据えた就業規則の改正など、労務管理面での対応・見直しに多く取り組んだ。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	費用対効果を意識した経営 (1)業務の効率化及び労働管理の徹底 (2)利率のよい定期預金への乗り換え及び債券運用の実施	(1)業務の効率化を図り、時間外業務の削減を徹底したところ、目標の30%を上回る40%の削減となった。 (2)定期預金を解約し、みずほ証券及び野村証券より国債を購入した。結果、資産運用の実施目標200万を上回る利息収入となった。
2	組織の強化 (1)事務局長の新設 (2)総務経験のある管理職の採用による総務課の強化 (3)管理監督職への登用	(1)(2)事務局長の新設に伴い、法人全体の状況把握や窓口の一本化に繋がった。また、総務経験のある管理職の採用により、業務の進め方等の見直しを行った。 (3)主任→補佐(1名)、一般職→補佐(1名)、一般職→主任(3名)の登用を行ったことにより、責任を持った業務遂行、モチベーションの向上などの組織強化に繋がった。
3	頑張った人が報われる人事制度の構築 (1)人事考課の本格実施 (2)人材登用制度の検討(支援職→正職、臨時職員→支援職) (3)各職種の給与制度見直し	(1)検討は進めたが、実施に至らなかった。 (2)2名の臨時職員を支援職員に登用した。 (3)抜本的な見直しまでには至らなかったが、休職・欠勤時の給与の取り扱いなど、細かな見直しを行った。
4	支援職員及び臨時職員に対する処遇改善の実施 (1)支援職員への処遇改善手当の支給 (2)支援職員及び臨時職員への処遇改善一時金の支給	(1)(2)支援職員への処遇改善手当の支給、支援職員・臨時職員への処遇改善一時金の支給を行い、支援職員・臨時職員の処遇改善を図った。
5	ホームページ、ブログの積極活用 (1)ホームページのリニューアル (2)ブログの定期更新 (目標10件/月)	(1)検討は進めたが、実施に至らなかった。 (2)ブログの定期更新は、目標の10件/月までは達成できなかったが、5~6件/月の更新を行った。

	計 画	実施結果
6	専門知識・技術の地域社会への還元 (1) 他団体等への積極的講師派遣 (2) 内部研修の一般開放	(1) 例年より回数は少し減ったが、今年度も箕面市立第3中学校PTAや箕面学園福祉保育専門学校への講師派遣を行った。 (2) 3月に実施した腰痛予防研修は他団体にも参加を呼びかけ、4名の他団体からの参加があった。

### (3) 今後について

- 費用対効果を意識した法人運営を今後も進めていく。
- 新会計基準への移行対応、あかつき園建替計画の検討、職員確保策の検討・実施など法人の今後の発展に向けた方策の検討や対応に取り組んでいく。
- ホームページやブログなども活用しながら、情報の受発信機能の強化に引き続き取り組んでいく。

### (4) 理事会・評議員会開催状況

#### <理事会>

- ・ 第1回 平成24年4月1日  
案件 = 理事長選任、副理事長選任 など
- ・ 第2回 平成24年5月28日  
案件 = 平成23(2011)年度決算、就業規則改正 など
- ・ 第3回 平成24年9月26日  
案件 = 理事長選任、定款変更、就業規則改正 など
- ・ 第4回 平成24年11月30日  
案件 = 職務代理選任、就業規則改正 など
- ・ 第5回 平成25年3月29日  
案件 = 平成25(2013)年度事業計画及び予算 など

#### <評議員会>

- ・ 第1回 平成24年5月25日  
案件 = 平成23(2011)年度決算、就業規則改正 など
- ・ 第2回 平成24年9月25日  
案件 = 定款変更、就業規則改正 など
- ・ 第3回 平成24年11月28日  
案件 = 就業規則改正 など
- ・ 第4回 平成25年3月27日  
案件 = 平成25(2013)年度事業計画及び予算 など

### 3. 箕面市立あかつき園<就労継続支援B型事業>

#### (1) 概要

- 「働くこと」を中心とした活動(製袋作業)を提供するとともに、安定的な利用に繋げるため、利用者の個別・多様な課題に対応した。
- 施設外支援については、箕面市障害者事業団での職場体験実習と他事業所での進路移行に関わる実習を行い、結果として市内障害福祉サービス事業所に2名が移行した。
- 安定的な経営を図るため、箕面市とも調整の上、非新規卒業者を1名受け入れるとともに、平成25年度より、就労継続支援B型事業での新規卒業者の受け入れを実施することとした。

#### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	施設外支援の実施 (1) 職場体験実習等の実施 (2) 他の就労継続支援B型事業者との連携 (3) 箕面市障害者事業団・就労移行支援事業所等との連携	(1) (2) 施設外支援として、箕面市障害者事業団及び特定非営利活動法人「すきっぷ」での実習に9名が参加、延べ78日間実施した。 (3) 箕面市自立支援協議会「障害者就労系事業所情報交換会」への参加や他事業者との協同作業のあり方を検討・模索した。
2	多様な障害特性の理解と、理論的根拠に基づく支援技術の向上 (1) 自閉症などの障害特性に応じた、支援の実践・検証 (2) 専門家(支援アドバイザー)の助言・指導 (3) 支援技術向上のための研修参加と研修成果の共有・活用 (4) 利用者個々の支援の標準化	(1) (2) (3) 支援アドバイザーによる定期相談を実施し、その結果を職員間で周知・共有し支援スキルの向上を図った。 (4) 週1回の会議、年2回のケース会議において利用者毎の支援の方向性の共有化を図った。
3	社会資源の情報提供・助言 (1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集 (2) 障害福祉サービスに係る情報提供 (3) 相談支援事業者等関係機関の活用	(1) (2) (3) 進路移行以外にもガイドヘルパーの利用に係る情報を適時提供し、その利用に繋がった。
4	市立あかつき園の機能・役割の再構築 (1) 関係機関との連携・調整 (2) 効率的な事業体制の検討・整備	(1) (2) 生活訓練事業の見直しとあわせ、今後の継続課題となった。
5	敷地内倉庫(製袋用)の拡大及び敷地外保管場所の検討	年度内に、転用予定だった温室の転用がかなわず(箕面市の判断)、継続課題となった。

### (3) 今後について

- 積極的な進路移行を実施する。(非新規卒業者・在籍年数8-9年目利用者を想定)
- 施設外支援を継続実施する。(箕面市障害者事業団の職場体験実習の活用)
- 自立訓練(生活訓練)とあわせた、あかつき園の機能・役割の見直しを行う。
- 温室の倉庫転用化への対応を図る。(製袋事業における箕面市し尿中継所<倉庫>に代わる製品保管場所の確保)

### (4) 主な活動内容

#### ①生産活動

ア) 箕面市指定ゴミ袋の製造・配布

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
年間売上金額	61,713,844円	73,987,479円	74,470,791円	83,705,923円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額(特別工賃を含んで換算)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年比
就労継続支援B型	30,608円	32,088円	<b>33,329円</b>	103.90%
生活訓練	13,653円	13,517円	<b>0円(対象外)</b>	----

#### ②施設外支援

実習先	参加人数(実数)	参加延べ日数	職種
箕面市障害者事業団	6名	62日	緑化部門(花壇管理等)
	1名	10日	喫茶るうぶ
NPO法人すきっぷ	2名	6日	就労継続支援B(ケーキ等)

#### ③その他の活動

- 園外活動(社会見学、進路移行先候補事業所見学)
- 作業活動(館内清掃)
- 健康維持活動(ウォーキング、ダンス、ラジオ体操)
- 日常生活・社会適応訓練  
(郵便・ハガキの出し方、移動能力の獲得、手芸<集中力・巧緻性・技巧性の向上/製作による意欲の向上>、カレンダーの見方、日付の読み方、困った時の他者への頼み方、適切な言葉遣い)

### (5) 在籍者状況(平成25年3月31日現在)

	在籍者人数	平均年齢	平均在籍	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	<b>8名</b>	<b>23.78才</b>	<b>5.09年</b>	<b>94.98%</b>	<b>8.18人</b>
平成23年度	10名	23.79才	6.90年	93.95%	10.25人
平成22年度	11名	25.00才	6.50年	94.13%	10.35人

※平成23年2月末、1名が進路支援によって他事業所へ移行

※平成24年6月末、9月末、それぞれ1名が進路支援によって他事業所へ移行

平成24年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	不明
	0名	0名	4名	3名	0名	0名	1名

### 3. 箕面市立あかつき園<生活訓練事業>

#### (1) 概要

- 社会生活を送る上で必要な知識や技術を、多様な体験の中で獲得してもらえるよう支援を行った。
- 新規利用者7名の円滑な利用の実現に努めた。具体的には、事前情報と実際に利用開始した結果を踏まえ、支援の要点を明確にし、個別支援計画の立案・実践・検証を行った。
- 困難ケースにおける支援として、感覚刺激への配慮、環境整備、行動予測に基づく支援、不快時の単独空間の提供などを行い、嘱託医・主治医・支援アドバイザーの助言を仰ぎ、支援の方向性や方法について検証を行った。
- 2名の訓練期間満了者について、本人・家族の意向を踏まえた進路移行支援を行いつつ、生活訓練からの進路先選択における制度的な背景確認、箕面市との調整を行い、その進路移行先を確保した。
- 就労継続支援B型とあわせた、あかつき園の機能・役割の見直しについては、継続課題となった。

#### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	行動障害を伴う利用者への物理的環境の工夫・整備	利用者間の障害特性・相性等も踏まえた、環境整備を行った。
2	多様な障害特性の理解と、理論的根拠に基づく支援技術の向上 (1) 自閉症などの障害特性に応じた、支援の実践・検証 (2) 専門家(支援アドバイザー)の助言・指導 (3) 支援技術向上のための研修参加と研修成果の共有・活用 (4) 利用者個々の支援の標準化	(1) 困難ケースにおける支援策として、障害特性に応じた環境整備を積極的に行った。 (2) (4) 嘱託医・支援アドバイザーに助言を仰ぎ、その結果を職員間で周知するとともに、週1回の会議、年4回のケース会議において個々の利用者の支援の方向性の共有化を図った。また、投薬調整入院に至った事例においては、病院を訪問し担当医等との情報交換を図った。 (3) 自閉症支援の先進施設の視察を行い、支援スキルの向上を図った。
3	社会資源の情報提供・助言 (1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集 (2) 障害福祉サービスに係る情報提供 (3) 相談支援事業者等関係機関の活用	(1) 日々の連絡帳や電話等において、家庭と適時連携を図った。 (2) (3) 必要に応じて適時情報提供等を行った。



計 画		実施結果
4	市立あかつき園の機能・役割の再構築 (1)新規利用者の受け入れのあり方の検討、障害程度区分による受け入れ先の設定 (2)事業変更の検討	(1)平成24年度から1年間の利用を前提に利用開始となった非新規卒業者について、他事業所の情報を提供したが、①その時点で家族が移行を望まなかったこと、②平成25年度の利用契約者人数が定員に満たないこと、から平成25年度も継続して利用することとなった。 (2)就労継続支援B型事業の見直しとあわせ、今後の継続課題となった。

### (3) 今後について

- 平成25年度に利用契約終了となる7名の進路移行支援を実施し、進路移行に繋げる。(年度途中での進路移行も含む)
- 平成26年度の新規利用者を確保する。
- 就労継続支援B型事業とあわせ、あかつき園の機能・役割の見直しを行う。

### (4) 主な活動内容

- 園外活動(能勢の里、一庫公園、手塚治虫記念館、妙見山)
- 作業活動(農園、空き缶リサイクル、館内・館外清掃、ペットボトルキャップ選別、指編み、洗車)
- 健康維持活動(ウォーキング、ダンス、ラジオ体操、水泳、スポーツセンター、レクリエーション)
- 日常生活・社会適応訓練(自立通所、買い物及び調理活動、図書館利用)
- 社会活動(地域清掃、公園清掃活動)
- 創作や音楽活動(ハンドベル、季節に応じた創作活動、各種音楽催しへの参加)

### (5) 在籍者状況 (平成25年3月31日現在)

	在籍者人数	平均年齢	平均在籍	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	9名	21.38才	1.21年	94.74%	8.53人
平成23年度	9名	22.00才	4.00年	97.22%	8.75人
平成22年度	7名	21.90才	3.90年	97.47%	6.82人

平成24年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	不明
	0名	4名	2名	3名	0名	0名	0名

## 4. 箕面市立ワークセンターささゆり

### (1) 概要

- 地域社会とのつながりを深める活動として、生産活動で生産した農作物・草花や手芸製品などの敷地内での定期販売を行い、利用者が対面販売に従事することを通して、お客さんとの接点や施設のPRに努めた。
- 進路支援について、本人・家族の意向を踏まえ、必要に応じて情報提供や事業所見学、体験実習を実施するなど、できる限りきめ細やかな支援を行い、2名の市内障害福祉サービス事業所（就労継続支援B型1名・生活介護1名）への移行に繋がった。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	<p>支援サービスの質的向上</p> <p>(1) 地域社会とのつながりを深める活動の試行的実施・検証</p> <p>(2) 市内事業所との情報交換・連携</p> <p>(3) ケースワークスキルの向上</p> <p>(4) 指導的立場の職員のコミュニケーション力の向上</p> <p>(5) 専門的知識の獲得</p>	<p>(1) 生産活動の農園では、従来は配達中心の野菜販売であったが、試行的に敷地内で週1回(毎週月曜日)対面販売を実施した。定期的な近隣へのチラシ配布や口コミ等から、徐々にではあるが顧客も獲得できた。利用者も商品やお金の受け渡しを通して、お客さんとの遣り取りにやり甲斐を感じている様子が伺えた。</p> <p>(2) 連携までには至らなかったが、進路先の事業所を訪問し、ワークセンターOB・OGの現況把握に努めた。また、法人で開催する研修会への参加案内等も行い、関係作りに努めた。</p> <p>(3) (4) 年度途中で指導的立場にある支援職員2名の退職があり、新規採用した支援職員の指導・育成に注力した。全体としては対象職員全員の底上げまでには至らなかった。</p> <p>(5) 自閉症の支援における先進施設の見学や、専門研修に職員を派遣し、学んだ知識を実践の中に取り入れた。一定時間を要したが、徐々に成果として実を結んできた。</p>
2	<p>幅広い利用者像(障害特性)に適したチーム編成</p> <p>(1) 障害特性に応じた6チームでのサービス提供及び効果・検証</p>	<p>1階(重度重複障害者)については利用者の障害状況を勘案し、3チームとしていたが、①利用者の入れ替わりに伴いチームの目的と合致しなくなったこと、②ベテラン支援職員の退職に伴い、職員がチームを超えて横断的に関わるが必要になったことから、平成25年度に向けて2チーム編成に戻すこととした。</p> <p>2階については、生活介護面における介護度だけではなく、特に環境整備や支援上特別な配慮が必要な利用者を対象とした少人数(6名)のチームを興し、3チームとした。個々への支援の効果は「安定」という形で現れたが、一方で孤立化を招く結果となり、集団生活への適応に向けた取り組みを模索した。</p>
3	<p>進路支援</p> <p>(1) 市内障害福祉サービスに係る情報提供及び斡旋調整</p> <p>(2) 体験実習による選択・検討する機会の提供</p>	<p>平成25年度はワークセンターへの新規利用者数(3名)が早期に確定し、特に定員を空ける必要がなかったため、一律に進路支援は行わなかった。但し、個別の要望に応じて情報提供や体験実習の機会を設け、2名の進路支援を行った。</p>

計 画		実施結果
4	障害者総合支援法(仮称)制定を見据えた調査研究 (1)研修等への参加による情報収集	該当する研修が少なかったため、参加は1回に止まった。それ以外は厚生労働省のホームページや、箕面市広域福祉課に直接確認を行い、情報を得た。

### (3) 今後について

- 将来の進路移行を見据えて、利用者の特性や強みに着目し、ワークセンター利用中にどの様な経験や力を身につけていくべきかをしっかりと見極め、支援を行う。
- 進路支援について、市内の他事業所に係る情報提供及び斡旋調整を行うとともに、他事業所での受入が困難な特別な配慮や支援が必要な重度重複障害者については、新たな進路先の創出も検討していく。

### (4) 主な活動内容

#### ①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
箕面市指定ごみ袋の生産	8,877,975円	9,098,000円	8,664,700円
さをり製品等製造販売	153,770円	111,784円	134,388円
ペットボトル、アルミ缶等リサイクル	111,561円	180,924円	132,512円
農園芸	1,678,647円	1,839,420円	2,039,401円
ケーキ・パン等	313,593円	652,018円	558,395円
計	11,135,546円	11,882,146円	11,527,596円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃(ボーナスを含んで換算)

平成23年度	平成24年度	対前年度比
10,441円	9,918円	94.90%

#### ②その他の活動

- ア) 所外活動(買い物、社会見学等)
- イ) 音楽活動(音楽療法、音楽レクリエーション、ハンドベル等)
- ウ) 健康維持活動(ウォーキング、ダンス、プール、リラクゼーション等)
- エ) 機能訓練(月1回の作業療法士による訓練指導)
- オ) 創作活動(絵画、工作、クッキング等)

### (5) 在籍者状況(平成25年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	59名	26.9歳	8.1年	94.30%	57.1名
平成23年度	62名	27.0歳	9.5年	93.40%	57.9名
平成22年度	66名	27.1歳	8.0年	94.70%	62.5名

平成24年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	21名	22名	11名	5名	0名	0名

## 5. わんすてっぷ

### (1) 概要

- 事業計画に基づき、新規利用者1名と新たに契約を行い、利用契約者が15名となった。また、週4日利用契約者1名を週5日利用契約に変更し、収入増に向けた取り組みを行った。
- 高齢の利用者と超高齢の家族の支援のため、在宅ケアセンターと連携のもと、家庭生活での課題抽出及びその解決策の検討を行った。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用契約日数及び利用率の向上 (1) 定員以上の利用契約者の確保 (2) 利用率向上を目的とした送迎サービスの期間を定めた実施 (3) 週4日契約利用者に対する週5日契約の推進 (4) 利用者受入にかかる基準の明確化	(1) 利用希望者の書類選考・実習を経て、9月に1名の利用者と新たに契約を交わし、利用契約者が15名となった。 (2) 利用者の心身の状況に応じて送迎を実施し、利用率の維持・向上に繋がった。 (3) 5月より、1名の週4日契約を週5日契約に変更し、利用日数の向上を図ったが、大幅な利用日数増には繋がらなかった。 (4) 現状の支援体制や施設環境で受け入れが可能な方を新規利用対象者とし募集・選考し、新たに1名受け入れた。
2	知的・精神の重複障害や、自閉症に関する専門知識の習得など理論的根拠に基づく支援技術の向上 (1) 三障害や自閉症等に係る専門研修への参加 (2) 専門家(支援アドバイザー・嘱託医、OT)の助言・指導 (3) 利用者個々の支援の標準化	(1) 高次脳機能障害者の外部研修や自閉症支援の先進施設の視察を行い、利用者支援の向上を図った。 (2) 嘱託医、支援アドバイザー、作業療法士の助言を得て、支援の質的向上に努めた。 (3) 新たな支援に当たっては、目的・方法や実施に伴う課題等を明らかにし、支援の標準化とともに、質的向上を図った。
3	利用者のニーズに応じた、多様な日中活動の提供 (1) イベント活動等の計画的実施 (2) 加齢・機能障害に伴う心身機能の低下の緩和	(1) 利用者の状況等に応じて、新たにイベント活動を計画・実施し、出席意欲や日々の充実感の向上に繋がった。 (2) 作業療法士の指導のもと、身体機能維持訓練を実施した。また、日々の活動に運動やカラオケ、口腔ケアなどを通じて、心身の健康維持を図った。
4	個別面談や家庭訪問等による情報収集 (1) 個別面談や家庭訪問等による情報収集 (2) 障害福祉サービスに係る情報提供 (3) 相談支援事業者等関係機関等の連携	(1) 連絡帳・電話・訪問等により、本人・家族の状況把握を適時行った。 (2) (3) 必要に応じて、相談支援事業「ウイズ」の紹介等を行った。また、在宅ケアセンターと連携し、家庭生活での課題抽出及びその解決策の検討を行った。

### (3) 今後について

- 独立採算による安定的な経営を図るため、利用定員拡大等について具体的な検討を行う。
- 利用者の主たる介護者（家族）の高齢化に伴う、親亡き後の生活について、相談支援事業者及び介護保険事業者等との連携を図るなど、年齢や障害状況に応じた支援策について検討する。

### (4) 主な活動内容

- ①文化創作活動（カラオケ・Wi iゲーム・さをり織り・工作 他）
- ②健康支援活動（レクリエーション・スポーツ・プール・ウォーキング 他）
- ③専門職による相談・指導  
（機能維持訓練・嘱託医による相談・ダンス指導 他）
- ④所外活動（インスタントラーメン記念博物館「カップラーメン作り体験」・箕面の滝「散策」 他）
- ⑤季節毎のイベント  
（花見・七夕そうめん・夏まつり・秋まつり・運動会 他）
- ⑥生産活動

#### ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成23年度	平成24年度	対前年度比
さをり製品等の制作・販売	56,080円	32,800円	58.40%
チラシ配布委託業務	71,606円	70,303円	98.10%
計	127,686円	103,103円	80.70%

#### イ) 利用者1人あたりの年額平均工賃

平成23年度	平成24年度	対前年度比
8,876円	7,587円	85.40%

### (5) 在籍者状況（平成25年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	15名	46.6歳	7.8年	94.50%	13.6名
平成23年度	14名	47.2歳	8.3年	94.00%	12.4名
平成22年度	15名	45.1歳	6.7年	91.50%	13.4名

平成24年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	5名	6名	4名	0名	0名

## 6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<園管理運営事業>

### (1) 概要

- 大阪府喀痰吸引等研修実施機関に登録申請を行い、新規事業として社会福祉増進事業を立ち上げ、特定の者対象の「喀痰吸引等研修」を合計4回開催した。(基本研修修了者数69名、実地研修修了者数7名。平成25年度は、実地研修及び修了申請事務のみを実施)
- 平成23年度に引き続き「地域で生きる」をテーマに、障害者問題市民講座を開催した。今年度は静岡県富士市にある重度重複障害者市民が利用する生活介護事業所の設立に至る経過等を記録したドキュメンタリー映画「普通に生きる～自立を目指して～」上映会を実施し、全3回上映、延べ153名が参加した。(平成25年3月8日)
- 会議室のLAN配線工事、プレイルームのスクリーン設置等、施設利用者の利便性向上のための施設整備を行った。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	<p>次期指定管理(平成26年～30年)を視野に箕面市と継続協議</p> <p>(1)手話講習会指導者 後輩指導者の育成</p> <p>(2)社会参加事業(茶道・華道教室等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定期間での修了、修了者は園内サークル活動へ</li> <li>・市内各種教室での障害者市民の受け入れ</li> <li>・パソコン教室等新規教室の検討</li> </ul> <p>(3)情報受発信事業(IT機器活用、点訳図書コーナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器更新、セキュリティ対策の実施</li> </ul>	<p>箕面市との継続協議実施には至らなかった。</p> <p>(1)前年度に続き後輩指導者を育成するためアシスタントの参加を実施した。</p> <p>(2)茶道(受講者5名)・華道教室(受講者6名)を実施した。しかし、利用者はほぼ毎年同じ顔ぶれであり、当該事業の有効性・公平性が課題として残った。</p> <p>(3)障害者関係団体から要望のあった会議室3、和室、フリールームへのLAN配線工事に関し、箕面市と協議の上、実施した。また、図書コーナーは利用頻度が極めて低く(箕面市障害福祉課が広報紙を2～3ヵ月に1回借用する程度)、今後のあり方が課題として残った。</p>
2	<p>「地域で生きる」障害者問題市民講座の開催</p>	<p>以下の通り、開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●開催日時： 平成25年3月8日(金) 午前10時00分～午後9時00分</li> <li>●映画上映会(全3回上映)： ドキュメンタリー映画 「普通に生きる ～自立を目指して～」 ※要約筆記、手話通訳、音声解説付き ※映画制作プロデューサーの貞末麻哉子氏による撮影時の話や質疑応答</li> <li>●参加者：153名</li> </ul>
3	<p>社会福祉増進事業「喀痰吸引等研修」実施</p>	<p>以下の通り、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本研修：全4回、修了者69名(当法人33名) ※基本研修では、当初の予想を下回り、箕面市内の事業所や教育委員会の申込者は少なかった。</li> <li>●実地研修修了者：7名(当法人4名)</li> </ul>

### (3) 今後について

- 次期指定管理事業(平成26年～30年)に関し、全事業の実施内容・効果を検証し、箕面市と継続協議を行う。
- 障害者問題市民講座は、ささゆり園生活介護事業の10年間を総括するとともに、医療的ケアを含む重度重複障害者市民の継続的地域生活を支える「仕組み作り」に関し、先駆的取り組みをされている他地域の法人職員を講師として招へいし、講演会を開催する予定である。(候補：横浜市(社福)訪問の家 多機能拠点事業「郷」)
- 喀痰吸引等研修については、研修受講修了者の実地研修及び修了証明書発行事務のみ継続実施する。

### (4) ささゆり園利用状況

	23年度	24年度	対前年度比
開館日数	323日	<b>321日</b>	99.40%
利用件数	2,052件	<b>1,990件</b>	97.00%
利用件数/1日	6.4件	<b>6.2件</b>	96.90%
利用者数	27,276名	<b>25,896名</b>	94.90%
利用者数/1件	13.3名	<b>13.0名</b>	97.70%
利用者数/1日	84.4名	<b>80.7名</b>	95.60%

事業名		23年度		24年度		対前年度比 (人数比)
		件数	人数	件数	人数	
障害者社会参加促進事業		43	196	<b>42</b>	<b>200</b>	102.0%
内訳	①茶道教室	21	84	<b>21</b>	<b>91</b>	108.3%
	②華道教室	22	112	<b>21</b>	<b>109</b>	97.3%
ボランティア育成事業		34	200	<b>35</b>	<b>165</b>	82.5%
内訳	①手話講習会「基礎課程」	23	130	<b>25</b>	<b>115</b>	88.5%
	②中級音訳講習会(前年は初級)	11	70	<b>10</b>	<b>50</b>	71.4%
啓発事業(障害者問題市民講座)		1	42	1	<b>153</b>	364.3%
貸館事業		1,974	26,838	<b>1,910</b>	<b>25,378</b>	94.6%
内訳	①障害者団体	718	12,505	<b>684</b>	<b>12,151</b>	97.2%
	②ボランティアサークル	482	5,996	<b>582</b>	<b>7,062</b>	117.8%
	③外郭・行政関係	147	2,769	<b>149</b>	<b>2,592</b>	93.7%
	④その他	557	5,478	<b>428</b>	<b>3,496</b>	63.8%
	⑤IT室	70	92	<b>67</b>	<b>77</b>	83.7%
合計		2,052	27,278	<b>1,990</b>	<b>25,896</b>	94.9%

#### ※会議室等使用団体数(平成25年3月31日現在)

- ・定期利用団体：35団体(対前年度0増)
- ・随時利用団体：40団体(対前年度8減)
- ⇒合計75団体(対前年度8減)
- 〈8減の内訳〉：箕面市関係課(交通政策課等6部局課)の一本化や利用実績の無い団体の登録削除12減、新規団体4増

## 6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園〈生活介護事業〉

### (1) 概要

- 医療的ケアを必要とする利用者への送迎サービスを実施するため、一部介護職の喀痰吸引研修(基本研修及び実地研修)を修了した。  
(実施は大阪府への申請終了後)
- 進行性疾患に伴う欠席や長期入院、また介護者の高齢化に伴う他施設への移行等があったが、利用契約者数を2名増加(週5日利用)等により、平均利用率は昨年度より微増した(23年度:84.7%→24年度:88.0%)。しかし、利用率増の最大要因は、年度途中で週1日利用の区分5の方1名が週5日に変更になった影響(134.4%増)によるものであり、逆に介護給付費収入は当初予算の97.6%、約160万円減となった。医療的ケアを必要とする重度障害者市民の利用予測と効率的職員配置は相当困難と言わざるを得ない。
- 外部向け機関誌を作成し、定期的に利用者・ささゆり園周辺へ配布した。(約600部)
- 利用者がより主体的に活動に参加できるよう、クラブ活動(創作部、音楽部、情報部、映画部)を実施し、年度末には利用者ご家族へ発表の場を設けた。(年度末イベントの新規開催)

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	医療的ケア実施体制 (1) 基本研修(特定の者対象)の受講 ※実施時期等は未定、必要に応じ 順次受講予定 (2) 実地研修(特定の者対象)の実施 ※実施時期等は未定、必要に応じ 順次実施予定	(1) 職員合計13名が、基本研修を受講した。 (2) 職員合計4名が、実地研修を実施した。
2	地域交流・啓発の在り方 (1) ブログ、機関誌の活用 (2) 地域の巻き込み方、地域へ出て 行く活動を検討 例:「箕面バリアフリーグル マップ」の作成	(1) 外部向け機関紙を作成し、定期的に利用者 とささゆり園周辺へのポスティングを実施した。 また、ブログを定期的(年計22回)に更新して 情報発信を行った。 (2) ①試行的取り組みとして、地域情報紙 「sasayuri walker」(ささゆりウォーカー)を 利用者と共に取材、作成した。(2回発行) ②近隣中学校によるブラスバンドコンサート や近隣高齢者施設との合同コンサートなど の交流を定期的に実施した。 ③貸館利用団体によるボランティア公演を 実施した。(ライヤーコンサート<シュタイ ナー子ども園>、紙芝居、素話<ポコ アポコ>、歌体操、手品(SA箕面))
3	支援サービスの質的向上 (1) マニュアル及び研修体制の確立 ①介護技術の標準化、マニュアル 化の推進 ②新職員への研修実施 (2) 提供プログラムの見直し、検証 ①年度末イベント(1年間の成果発 表)の実施	(1) ①利用者アセスメントシートや各 利用者の基本支援マニュアル、入浴支 援マニュアル等のマニュアル作成を行 うことにより、介護技術の標準化を 図った。 ②新規採用職員(臨職)に、安全・適 切な身体介護技術、てんかん、脳性 まひ等の研修も継続実施した。 (2) ①年度当初より発表を目標とし て取り組んでいたため、利用者及び 職員の「やりがい」に繋がった。 また、家族参加イベントであったた め、スライド



計 画		実施結果
	②トワイライトプログラムの実施	ショー上映では、家族に日中活動の様子を知ってもらい良い機会となった。 ②通常のサービス提供時間と異なる時間帯(14:00～20:00)に活動提供を行うことで、職員の知らない利用者的一面(排尿リズム等)を知る機会、キャンプファイヤー・花火等で季節を感じてもらい機会、職員・利用者同士の交流を深める機会となった。
4	支援体制の安定化 (1)職員への個別懇談実施(年2回)	(1)業務振り返りチェックシートを作成し、それをもとに年2回、管理職との個別面談を実施。その結果、「自分自身の現状課題の認識や利用者支援の気づきに繋がった」等の意見、感想を多数聞くことができ、また課題点も浮かび上がった。

### (3) 今後について

- 医療的ケア実施体制の充実を図る。(指導看護師による介護職研修の適時実施、医療的ケアマニュアル作成等)
- 医療的ケアを必要とする利用者へ安定的に送迎サービスを実施するため、順次実地研修を実施し、従事スタッフを拡大していく。
- 個々の障害特性に応じたサービス提供に向け、3班体制を新規導入する。
- 先駆的取り組みを行う他地域の法人等への調査研究を行う。

### (4) 主な活動内容

- ①健康維持活動(バイタルチェック、医療的ケア、プール、足浴、ダンス活動)
- ②機能訓練(月1回の作業療法士による訓練指導及び日常のエクササイズ)
- ③創作活動(さをり織り、組み紐、イベント開催時等の飾り付け)
- ④園外活動(買い物、散歩、ラウンドワン)
- ⑤音楽活動(カラオケ、音楽鑑賞)
- ⑥ゲーム活動(ボウリング、ポッチャ、風船バレーなど)
- ⑦イベント(季節行事:年6回実施)

### (5) 医療的ケア実施状況

内 容		人数
たんの吸引	口腔内	9名
	鼻腔内	1名
	気管カニューレ内部	4名
経管栄養	胃ろう	3名
	腸ろう	1名
	経鼻経管栄養	3名
胃ろう、腸ろうによる与薬		3名
ブジー		1名
合 計(延べ人数)		25名

### (6) 在籍者状況(平成25年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	24名	41.0歳	6.4年	88.00%	16.6名
平成23年度	22名	40.4歳	6.0年	84.70%	15.4名
平成22年度	21名	40.0歳	5.3年	84.40%	16.1名

平成24年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	20名	4名	0名	0名	0名	0名

## 6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<放課後教室>

### (1) 概要

- 放課後等デイサービス事業が市内5か所、近隣都市3か所が新たに設立されたため、次期指定管理事業（平成26年～30年）を視野に、今後に向けて箕面市と協議を行った。
- ご本人・ご家族の意向を踏まえて、社会適応訓練（自力通所に向けた支援、最大1ヵ月間）を新たに実施した。
- 平成23年度同様、他事業所と連携を図りながら、利用の公平性、利用者・家庭状況等に配慮した曜日の設定を行った。また活動内容に関しては、各曜日のサービス内容の均一化を図った。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	次期指定管理(平成26年～30年)を視野に箕面市と継続協議 (1)新制度へ移行又は廃止を含め検討 (2)新規参入する民間事業所の動向確認 ※平成24年3月に1ヵ所、7～8月に2ヵ所新規開設予定	(1)箕面市へ放課後教室の現状及び今後の課題（定員割予測等）を報告した。 (2)①放課後等デイサービスが市内5ヵ所、近隣都市3ヵ所が新たに設立され、2ヵ所の施設見学を実施した。 ②近隣施設、ご家族による任意団体「スマイルシード」等と情報交換を行い、他事業所の今後の動向について状況把握に努めた。
2	待機者の解消に向けた取り組み ※長期(3ヵ月以上連続)欠席者への対応(原則契約終了)	長期欠席者はいなかった。
3	支援サービスの質的向上 (1)マニュアル及び研修体制の確立 ①介護技術の標準化、マニュアル化の推進 (2)自閉的傾向・発達障害のある児童へのアプローチ ①瀬川地域で導入済の支援アドバイザーの活用 ②各種外部研修への積極参加	(1)①社会適応訓練(自力通所に向けた支援)実施に向け、スクリーニングシート(事前確認表)を作成し取り組んだ。 ②事務的業務やトイレ介助等に関するマニュアルを引き続き活用した。 ③新任職員には利用者のプロフィール資料を用いてオリエンテーションを行った。 (2)①支援アドバイザーの助言のもと、絵カードや写真等を用いて、予定や日課をわかりやすく伝えた。 ②自閉症、発達障害を中心とした取り組みを実施している「萩の杜」の見学を実施。その他、学校見学や自閉症に関する支援方法を学ぶ外部研修等に参加し、スタッフ間で情報共有を行った。

### (3) 今後について

- 民間放課後等デイサービス事業所の飛躍的増加している状況を踏まえ、次期指定管理事業（平成26年～30年）に関して、事業実施内容・効果を検証し、新事業移行又は事業廃止を含め箕面市と継続協議を行う。
- 発達障害等への対応に関し、瀬川地域で導入している支援アドバイザーの助言を受けながら、個別の課題に応じた支援のあり方について実践・検証を行う。

#### (4) 主な活動内容

- ①健康活動 (散歩、プール)
- ②調理実習 (焼き菓子作り)
- ③創作活動 (コットンスティックアート、木工)
- ④農園活動 (野菜、草花栽培)
- ⑤所外活動 (公共交通機関の利用、社会見学)

#### (5) 在籍者状況 (平成25年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成24年度	25名	16.3歳	2.8年	84.70%	8.4名
平成23年度	25名	16.6歳	3.3年	85.00%	8.5名
平成22年度	25名	16.0歳	2.8年	85.50%	8.4名

平成24年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	0名	8名	6名	2名

## 6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<施設入浴サービス事業>

### (1) 概要

- 実施時間帯(平日夕方)、従事時間(1日2時間程度)の関係から、依然として従事者(登録ヘルパー)の確保が困難な状況にあり、不足分は生活介護スタッフで対応している。
- 生活介護スタッフによる時差出勤対応を実施した。(時間外コスト削減)

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	従事職員の確保 (1) ブログの活用、近隣への呼びかけ、ビラ配り。近隣大学、専門学校へ募集(卒業時に後輩へつなぐ) (2) 男性ヘルパーの確保 短時間臨時職(6時間)としての募集	(1) 学校を卒業するヘルパーに、卒業時に後輩の紹介を依頼し、ヘルパー登録に至った。しかし、ブログの活用、ビラ配布等を実施したが、安定的なヘルパー確保には至らなかった為、生活介護スタッフによる時差出勤にて対応した。 (2) 短時間臨時職員の確保ができた。
2	マニュアル及び研修体制の確立 (1) 介護技術の標準化、マニュアル化の推進 (2) 新任職員、ヘルパーへの研修体制の確立	(1) (2) マニュアル化には至らなかったが、登録ヘルパーに対し、適時安全・適切な身体介護技術の指導を行った。
3	次期指定管理(平成26年~30年)を視野に箕面市と継続協議 (1) 事業の継続又は廃止を含め継続協議 (2) ホームヘルパー、訪問入浴事業の活用	箕面市との継続協議実施には至らなかった。 (1) 箕面市へ入浴の現状及び今後の課題(送迎、光熱費等)を報告した。 (2) ホームヘルパー、訪問入浴、基準該当サービスなど、何らかの社会資源を活用することにより、最大週6回まで自宅で入浴サービスを受けることができる等の情報提供を実施した。

### (3) 今後について

- 登録ヘルパーを確保する。(機関誌、ビラ配布、ブログ等の活用)
- 登録ヘルパーに依存しない従事体制を検討する。
- 入浴専門臨時職員(1日6時間勤務の男性職員1名)を募集し、確保する。
- 生活介護スタッフによる時差出勤対応を行う。(時間外コストの削減)
- 次期指定管理事業(平成26年~30年)に関し、全事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止を含め箕面市と継続協議を行う。(民間事業所の充実<ホームヘルパー、訪問入浴>)

#### (4) 施設入浴サービス利用状況

	23年度	24年度	対前年度比
実施日数	244日	<b>245日</b>	100.40%
利用者数	869名	<b>723名</b>	83.20%
利用者数／1日	3.6名	<b>3.0名</b>	83.30%

## 7. 地域生活総合支援センター〈第2つながりの家・第9つながりの家〉

### (1) 概要

- 平成24年度は、平成23年度に引き続き、運営日の拡大に取り組んだ。1ホームを週6日運営（月・夕方～土・朝）から週7日運営（月・夕方～日・朝）にし、365日運営の1ホームについては365日利用の1名以外は週6日利用であったが、週7日（月・夕方～日・朝）利用に拡大し、利用率の向上と収入増に努めた。
- あかつき福祉会が経営する日中活動の場での進路支援の結果、様々な事業所へ移行される利用者が増えたため、他事業所と懇談を行ったり、連絡を密に行ったりすることで入居者の情報共有に努めた。
- 入居者の現状や将来像を考え、1名の入居者の転居を行い、より自立に向けた支援に取り組み始めた。
- 入居者およびその家族へのアンケート調査を実施し、ニーズの掘り起こしやそこで出された要望等に対する対応を行った。
- 夜間支援業務手当の増額を行い、職員の待遇改善を図った。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	支援体制の再構築 (1) 高齢化に伴う利用者間の関係性に配慮 (2) 個別の支援を充実させるため、ヘルパーの個人派遣利用を促進する (3) 高齢化に伴う健康管理を充実させるため、通院等介助サービス活用を促進する（定期通院の充実）	(1)(2)(3)平成23年度に引き続き、利用者の健康管理を充実させるため、通院等介助を利用し、通院機会を増やすなど取り組んだ。なお、歯科や精神科への通院のほか、耳鼻科や皮膚科への通院が増加した。
2	職員の勤務に関する調査研究と安定確保 (1) 再雇用者増加に伴う人員確保（週4日勤務の補填） (2) 再雇用者期間満了に向けた職員育成（世代交代） (3) 職員募集の工夫	(1)(2)(3)夜間支援業務手当の増額（700円→1,400円）を行い、職員の待遇改善に努めた。世話人の育成は継続して行ったが、現在の勤務体制の見直しと合わせて実施する必要があり、継続課題となった。
3	入居者負担金の見直し (1) 入居者負担金の精算方法について簡略化およびスピード化を図る	精算方法に関する具体的な方策は取れなかった。しかし、現在の利用状況や収入・支出状況を総合的に分析した結果、平成25年度中に精算方法を見直す結果となった。

計 画		実施結果
	(2) 土曜日送迎の見直し（利用料金及び送迎方法）	福祉有償運送制度と移動支援事業を併用して運行してきたが、平成24年度より福祉有償運送制度の利用を取りやめ、移動支援事業のみで運行し、利用料金を廃止した。また、ケアホームの運営日の拡大・送迎利用者の増加に伴い、土曜日に2便運行していたものを、土曜日1便・日曜日1便に変更し、サービスの充実に努めた。
4	ケアホームの欠員補充のための体験入居を自活訓練・生活訓練修了者を対象に実施	欠員補充要領に基づき手続きを進めた結果、転居希望者がいたため、転居にかかる支援を行った。

### (3) 今後について

- ケアホームの欠員補充を実施する。
- 入居者の高齢化による障害程度区分の変化により、定員に欠員がある状態で人員配置基準を何とか満たしている状況であるため、今後の状況を見ながら職員配置等について検討する。
- 食材業者を変更してクックチル方式を取り入れ、調理時間が短縮されたため、短時間職員(食事作り)の勤務内容の検討を行う。勤務時間を減らすと人員配置基準を満たすことが難しくなるため、雇用時間の変更をせずに勤務内容の検討を行う。ただし、人員の増員を行った場合は、この限りではない。
- 入居者の希望により、休日運営を行う場合は、他の入居者にも利用してもらうよう取り組み、また人員の確保ができる場合は、休日運営を行い、利用率の向上と収入増を図る。
- 他都道府県で起きた福祉施設での火事を受け、消防本部の立入検査があり、今後消防法の改正が見込まれることから、その対応が急務となる。

### (4) 在籍者状況（平成25年3月31日現在）

	平均年齢	平均利用率	
		平成23年度	平成24年度
全体(33人)	41.0歳	77.6%	80.3%
女性(16人)	40.3歳	76.0%	78.7%
男性(17人)	41.8歳	79.1%	81.8%

## 7. 地域生活総合支援センター〈箕面市障害者ショートステイ室〉

### (1) 概要

- 平成24年度は瀬川地区への短期入所事業の拡大移転の実施年であった。拡大したことで、受け入れ人数は増えたものの、これまで日帰りで利用していた利用者が宿泊中心となったこと、1泊の利用が中心であったが連泊の申し込みが増えたこと、更には利用登録者数が大幅に増えたことから「断り件数の解消」には繋がっていない。そのため、今年度実施した利用者アンケート結果でも「増床して使いやすくなった」との声と「増床したのに利用を断られる」という相反する声があった。
- これまでの自活・生活訓練の形を変え「宿泊体験利用枠」を設けたが、登録者数がこれまでの自活・生活訓練の登録者を大幅に超える結果となり、当初の予定であった2ヵ月前の予定決定には至らず、短期入所利用者と調整しながら、利用直前での案内となった。
- 日中一時支援事業は、移転前は宿泊枠が少ないことから夕方の受け入れ人数が定員を超えていることが多くあったが、移転後は宿泊者が多くなり、夕方の受け入れが困難な状況となった。なお、今年度より送迎サービスを中断していること、就学児童の長期休暇中等は放課後型児童デイが増えたことで、利用申し込み自体が減少した。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	増床移転に伴う支援体制の再構築	夜間受け入れ利用者が増えたこと、施設が拡大したことで、職員の勤務体制を変更し、夜間の支援体制を整えた。しかし、予想以上に利用登録者が増え、かつ重度障害者の登録が半数以上となっているため、当初予定していた7名/日の利用受け入れは困難な状況であった。
2	運営安定化に努める	今年度の当初目標であった1日平均5名の利用については達成したため、平成25年度は収支差補助額を400万円減額する事が出来た。しかし、これ以上利用者を増やす場合は支援体制を再構築する必要がある、収支差補助と給付費のバランスを図りながら、箕面市障害福祉課と協議が必要となる。
3	定期的・計画的な利用を促進する	定期的・計画的な利用ということでニーズは高く昨年度廃止となった自活・生活訓練の登録者をはるかに上回る登録があった。しかし、短期入所自体のニーズが高まっている事もあり、当初予定していたような利用計画は困難であり、利用回数も1名あたり2~3ヵ月に1泊という状況であった。



計 画		実施結果
4	赤字運営の福祉有償運送の休止・再検討	短期入所事業は、送迎加算が創設されたため車両等の維持管理は可能となった。日中一時支援事業は、利用者が半数まで落ち込んだが、送迎がないことだけが理由ではなく、近隣に放課後型児童デイサービスが普及したことで、長期休暇中の就学児童の申し込み自体が激減しており、現状の事業規模と短期入所の利用状況を勘案すると、日中一時支援事業単独で福祉有償運送の運営は困難であるため、このまま休止を継続することとした。

### (3) 今後について

- 現在、短期入所事業において、定員の8床（緊急枠を除く7床）を申し込み通りに受け付けることは困難な状況にある。原因として、利用者の半数以上が区分5・6の重度障害者であるため、夜間2名の支援体制では受け入れられないこと、現在の利用対象者が全ての障害かつ0歳から65歳と幅広くなっているため、混合利用の困難性が利用人数が増えることで更に増していること、が挙げられる。今後、受け入れ人数を増やすためには支援者の増員等の方策が不可欠であり、これについては収支差補助の今後のあり方について箕面市との協議が必要となる。
- 障害者虐待防止法の施行により、「一定時間距離を置く方が良いのでは」というような予防的な相談が増えてきていることについて、今後の対応を検討する必要がある。

### (4) ショートステイ室利用状況

	平成23年度	平成24年度	対前年度比率
延べ利用者数 (1日平均)	1,482名 4.1名	<b>2,591名</b> <b>7.0名</b>	174.8%
短期入所 (1日平均)	957名 2.6名	<b>2,328名</b> <b>6.4名</b>	243.2%
日中一時 (1日平均)	525名 1.4名	<b>263名</b> <b>0.7名</b>	50.0%

## 7. 地域生活総合支援センター〈ヘルパーステーション「ウイズ」〉

### (1) 概要

- 平成24年度は大きな利用増加等はなかったため、これまでの派遣状況を見直し、ヘルパーでしか支援できなかった利用者に対して支援者を増やす取り組みを行った。また、ケアホームの休日利用が増えることで、日中の支援が増加したこと、ケアホーム入居者の定期通院が必要となったことから、同行援護の実績は増加した。
- ケアホームの利用率増加により、ケアホームでの居宅介護利用も年度途中まで増加傾向にあったが、入居者の体調不良から入院があり結果的には減少となった。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	効率的な経営	ケアホームへの個別派遣は定着しているが、入居者の利用状況で実績が大きく左右される。今年度下半期は入居者の体調不良・入院等が続いたため収入は減額したが、1年を通して見ると収入増であったため、通院等介助を含め安定的な派遣が可能であった。
2	支援サービスの質的向上	ヘルパーに対し、随時必要な研修や利用者との顔合わせを行い、少しずつ支援者が増えた。特に、ケアホームの派遣ヘルパーは、一定の経験を積んだ後に臨時職員契約へ移行し、継続的な支援者の確保を図った。

### (3) 今後について

- ショートステイ室利用者の増加に伴い、事務所勤務職員がショートステイ室の応援に入ることが多くなっており、今後、事務所勤務職員だけの派遣調整が困難になることも予想されるため、多くの職員が調整できるような体制づくりに取り組んでいく必要がある。
- 移動支援については、どの事業所も支援者不足で派遣困難な事が多いと聞かすが、新規開設事業所等では利用者を求めている事業所もあるため、相談支援を通じて事業所間の連携を強化し、利用者への情報提供を行っていく。

#### (4) ヘルパー派遣状況（平成25年3月31日現在）

単位：時間

	居宅介護			移動支援		
	通院等介助		同行援護	I類	II類	
	(身体介護あり)	(身体介護なし)		(身体介護あり)	(身体介護なし)	
平成24年度	194	38	276.5	1,708.0	1,100.7	744.6
平成23年度	245	49	135.5	1,836.0	1,136.0	714.0

※通院等介助（身体介護あり）が減少したのは、平成23年度は短期間（2ヵ月間毎日）で集中的な通院等介助の依頼があったためであり、平成24年度の実績数が通常の状態となる。

また、通院等介助（身体介護なし）が減少したのは、日中活動の場で通院をサービスとして利用できることとなった利用者がいたため。

※同行援護は平成23年10月施行であったため、平成24年度が初めて1年間の実績となった。

※身体介護が減少したのは、ケアホーム入居者が体調不良・入院・手術となったため、ケアホームへの派遣が減少したことが要因。

## 7. 地域生活総合支援センター<ウイズ>

### (1) 概要

- 箕面市からの相談支援事業(市町村地域生活支援事業)を受託し、障害のある方や家族等からの在宅生活でのあらゆる相談の受付や解決に向けた調整等を行った。
- 今年度の相談件数は、延べ561件(昨年度588件)、実利用者87名(昨年度60名)、新規相談者34名(昨年度24名)であった。相談内容では「福祉サービスの利用」に関する相談が約65%を占めた。
- 箕面市地域自立支援協議会に参加し、困難事例への対応方法の検討や箕面市障害者虐待防止センターと連携し、障害者への虐待対応を行った。

### (2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	新制度での円滑な相談業務の実施 (1) 利用者の拡大を図る。 (2) サービス等利用計画作成対象者の拡大	(1) 全体の相談件数は前年度比約95%であったが、実人員は約145%と大幅な増員であった。 (2) 箕面市の方針で年度末より、支援学校新卒者から対象となり、その対応を行った結果、7名のサービス等利用計画の作成とモニタリングを行うこととなった。
2	困難事例への対応 (1) 虐待的行為への対応 (2) 障害福祉サービスを利用していない障害者市民への支援	(1) 母子関係に課題がある家庭に定期訪問し、対応を行って来たが、12月に母親からの虐待で、箕面市障害者虐待防止センターが介入し、母子分離を図った。その後、母親の急逝ため、法定後見人と連携し、本人の支援を行った。 (2) 継続的な家庭訪問や電話連絡を行った。1名が生活介護事業を週5日で利用を開始し、2名が週1回(生活介護)の利用を週5日に変更となった。しかし、2名は在宅のまま福祉サービスの利用に至らなかった。
3	権利擁護の推進 (1) 成年後見人の必要性について理解促進を図る	継続的に働きかけを行ってきた方が申出をし、市内の弁護士が選任された。

\* 今年度についても、ショートステイの利用に関する相談が最も多く42件あった。次いでヘルパーの利用(35件)、施設入所(11件)、グループホーム・ケアホームの入所に関する相談(5件)となった。これまではショートステイの利用に関する相談が圧倒的に多かった(前年度92件)が、家族(主に親)の高齢化で対応できないこと(通院、外出など)でのヘルパー利用が進んでいる。

\* 今年度、母子二世帯の母が急逝し、残された本人の支援を法定後見人と連携して行った。法定後見人の委任により、相談支援専門員がケアホームへの住所変更、国民健康保険の手続等の実務をスムーズに行うことができた。

\* 平成24年10月から施行された障害者虐待防止法により箕面市に設置された、箕面市障害者虐待防止センターと連携し、虐待があった家庭への夜間・休日の訪問などの対応を行った。母子分離の後、母親が急逝され本人は短期入所を利用後、ケアホームに入居した。

### (3) 今後について

- 指定特定相談支援事業では、利用者のニーズに応じたサービス等利用計画を作成し、他の事業所と連携して利用者が地域で充実した生活ができるよう支援していく。
- 福祉サービスを利用していない方に働きかけを行い、地域で充実した生活ができるよう支援していく。

### (4) 相談状況

#### ①経路別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
訪問	—	9(0)	165(0)	—	174(0)
来所	1(0)	7(1)	63(1)	—	71(2)
同行	—	3(0)	4(0)	—	7(0)
電話	4(0)	34(0)	253(1)	—	291(1)
電子メール	—	—	11(0)	—	11(0)
個別支援会議	—	1(0)	2(0)	—	3(0)
関係機関	—	—	3(0)	—	3(0)
その他	—	—	1(0)	—	1(0)
合計	5(0)	54(1)	502(2)	—	561(3)

※括弧内は児童の相談件数

#### ②内容別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
福祉サービスの利用	4(0)	49(1)	315(0)	—	368(1)
障害や病状の理解	—	—	1(0)	—	1(0)
健康・医療	1(0)	3(0)	35(0)	—	39(0)
不安解消・情緒安定	—	—	17(0)	—	17(0)
家族関係・人間関係	—	—	2(2)	—	2(2)
家計・経済	—	—	8(0)	—	8(0)
生活技術	—	—	1(0)	—	1(0)
社会参加・余暇活動	—	—	3(0)	—	3(0)
権利擁護	—	1(0)	14(0)	—	15(0)
その他	—	1(0)	106(0)	—	107(0)
合計	5(0)	54(1)	502(2)	—	561(3)

※括弧内は児童の相談件数

## 8. 苦情解決状況

※苦情解決システムに基づき対応したもの

	施設・サービス	苦情内容 (苦情受付経路)	対応結果
1	箕面市立あかつき園	利用者に対する職員の言動について  (苦情相談員) (箕面市障害福祉課)	あかつき園にて聞き取り調査等を行った結果、職員による利用者への不適切な言動があった事実は認められなかった。 当該利用者家族に対し、調査結果の説明を行うと共に、園長、当該利用者担当職員、苦情対象職員より、あかつき園における当該利用者と苦情対象職員との関わりの状況について詳しく説明等を行った結果、理解を得られた。
2	箕面市障害者ショートステイ室	1. 利用予約時の職員の対応 2. 利用のあり方について  (苦情相談員)	1. 利用予約時の電話対応について、苦情対象職員に対し、利用者立場に立ったより丁寧な対応するよう指導を行った。  2. ショートステイの利用状況等について、苦情相談員を通じ説明し理解を得られた。

## 9. 地域参加・交流状況

---

### (1) 納涼祭

実施日時： 8月24日（金） 18:00～20:00  
実施場所： 瀬川地区敷地内  
地域参加者： 約350名  
協力団体： 7団体＋あかつき福祉会有志3団体  
利用者参加者： 44名  
職員従事者： 37名＋有志22名  
内容： 盆踊り、抽選会、模擬店、紙芝居など

### (2) 西南ジャンボリー

実施日時： 9月1日（土） 15:30～18:00  
実施場所： 西南小学校グラウンド  
参加者数： 97名（前年度94名）  
実行委員会： 4回実施  
職員従事者： 3名  
内容： 車いす体験コーナー

### (3) いきいきふれあい広場

実施日時： 11月10日（土） 10:00～14:30  
実施場所： 西南公民館  
利用者参加者： 2名  
職員従事者： 4名  
内容： 野菜、さをり製品、パン等の販売

## 10. 職員研修実施状況

### (1) 法人全体研修

実施日	研修内容	参加者数	講師
平成24年4月2日～ 平成24年4月28日	新規採用職員研修	3名	法人職員 (管理・監督職)
平成24年12月18日～ 平成25年3月26日	人権研修「障害者虐待防止について学ぶ」	100名	法人職員 (所属長)
平成25年3月22日	腰痛予防について	27名 (内4名外部)	大西 満氏 (藍野大学作業療法士学科 教授)

### (2) 事業・施設別研修参加状況

	平成23年度	平成24年度
法人本部	7名 (5件)	6名 (6件)
あかつき園	3名 (3件)	12名 (7件)
ワークセンターささゆり	25名 (24件)	26名 (14件)
わんすてっぷ	7名 (6件)	5名 (5件)
ささゆり園	57名 (22件)	171名 (44件)
地域生活総合支援センター	7名 (7件)	11名 (5件)
合計	106名 (67件)	231名 (81件)

	研修内容
法人本部	平成24年安全運転管理者等法定講習、新社会福祉法人会計基準案の概要、社会福祉法人監事研修会など
あかつき園	相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修、発達障害を伴う知的障がい関係機関研修会、喀痰吸引等研修など
ワークセンター ささゆり	サービスマナー・セミナー(初級・中級)、障がい児・者施設専門ゼミナール、てんかん基礎講座、ATAC研修、医療的ケアが必要な重症心身障がい児(者)に対する身体介護技術研修、障害があっても楽しめるスポーツと姿勢のコツそしてリハビリテーション、発達障がいを伴う知的障がい関係機関研修、福祉専門職講座(新任職員)、相談支援従事者現任者研修、平成24年度サービス管理責任者研修、喀痰吸引等研修など
わんすてっぷ	福祉職員研修(指導的職員)、高次脳機能障がい支援関係機関職員等研修会(Ⅱ)、喀痰吸引等研修、相談支援専門員研修など
ささゆり園	喀痰吸引研修(基本研修、実地研修)、医療的ケア研修、てんかん基礎講座、障害児・者施設専門ゼミナール、発達障害を伴う知的障害関係機関研修、サービスマナー・セミナー中級、虐待研修など
地域生活総合 支援センター	喀痰吸引研修、サービス管理責任者研修、メンタルヘルス、サービスマナー研修、全国ケアホーム・グループホーム等研修会など



# 11. 実習生受入状況

## (1) 進路支援に係る実習

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園	箕面支援学校	1名	1名	1日	支援学校卒業後の進路先を検討するため
	豊中支援学校	6名	12名	12日	
ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	3名	4名	4日	
ささゆり園	箕面支援学校	2名	4名	4日	
わんすてっぷ	個人	2名	2名	3日	
	合計	14名	23名	24日	

## (2) その他

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園	箕面市	2名	2名	2日	新任監督者研修
		4名	17名	17日	新規採用職員研修
	大阪府教育委員会	2名	2名	2日	新規採用教員研修
ワークセンター ささゆり	箕面市	2名	2名	2日	新任監督者研修
		4名	17名	17日	新規採用職員研修
	大阪府教育委員会	2名	2名	2日	新規採用教員研修
	ふるる	1名	2名	2日	職員研修
わんすてっぷ	箕面市	1名	1名	1日	新任監督者研修
		4名	16名	16日	新規採用職員研修
ささゆり園	箕面市	1名	1名	1日	新任監督者研修
		4名	17名	17日	新規採用職員研修
	箕面学園福祉保育 専門学校	1名	1名	1日	オリエンテーションのみ
	合計	28名	80名	80日	

## 12. ボランティア受入状況

事業・施設名	参加内容	参加回数	述べ参加者
あかつき園	製袋作業	205回	205名
ワークセンター ささゆり	農園作業	122回	413名
	日中活動	16回	16名
	所外活動・イベント	12回	80名
わんすてっぷ	日中活動	34回	39名
	所外活動・イベント	9回	15名
ささゆり園	コンサート・紙芝居	5回	109名
	合計	403回	877名

# 13. 視察・見学状況

## (1) 受入状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
あかつき園	箕面市立西南小学校2年	5名	施設見学
	箕面市立西南小学校6年	107名	施設見学
	箕面市立西南小学校教員	27名	施設見学
	大阪府立豊中支援学校高等部保護者、教員	8名	進路に係る社会資源の視察
	寝屋川市職員、寝屋川市立すばる・北斗作業所職員	4名	施設見学
ワークセンター ささゆり	箕面市立西南小学校2年	5名	施設見学
	箕面市立西南小学校6年	107名	施設見学
	箕面市立西南小学校教員	27名	施設見学
	大阪府立豊中支援学校高等部保護者、教員	19名	進路に係る社会資源の視察
	寝屋川市職員、寝屋川市立すばる・北斗作業所職員	4名	施設見学
ささゆり園	有限会社しえあ〜ど	1名	施設見学
	大阪大学医大生研究グループ	7名	施設見学
	千里リハビリテーション病院	5名	施設見学
	大阪府立箕面支援学校高等部保護者、教員	3名	進路に係る社会資源の視察
わんすてっぷ	箕面市立西南小学校教員	27名	施設見学
	大阪府立豊中支援学校高等部保護者、教員	8名	進路に係る社会資源の視察
	寝屋川市職員、寝屋川市立すばる・北斗作業所職員	4名	施設見学
支援センター	寝屋川市職員、寝屋川市立すばる・北斗作業所職員	4名	施設見学
合計		372名	

## (2) 視察・見学実施状況

施設・事業	見学・視察先	人数	目的
あかつき園	明光ワークス	8名	進路支援(所外活動)
	NPO法人すきっぷ	8名	
	豊中支援学校高等部	1名	情報提供
	箕面市自立支援協議会	1名	情報提供
	知的障害者生活施設 萩の杜	1名	自閉症支援の視察
ワークセンターささゆり	知的障害者生活施設 萩の杜	1名	自閉症支援の視察
	そよかぜの家	1名	進路支援
	ジョイント	1名	進路支援
わんすてっぷ	知的障害者生活施設 萩の杜	1名	自閉症支援の視察
ささゆり園	知的障害者生活施設 萩の杜	2名	自閉症支援の視察
	箕面市立第一中学校	6名	施設見学(利用状況確認)
	箕面市立第四中学校	6名	施設見学(利用状況確認)
	有限会社しえあ〜ど	2名	独自医療ショート施設見学
	フェニックス	1名	医療型入所・ショート施設見学
	さんかくひろば	6名	放課後等デイ施設見学
	まめべや	2名	放課後等デイ施設見学
合計		48名	

## 14. 講師派遣状況

派遣先	件名	派遣講師
箕面市立第3中学校PTA	3中校区まちかど ウォーク	加藤隆之
箕面学園福祉保育専門学校	移動支援従事者研修 (同行援護)	三阪義英

# 15. 役員名簿

## (1) 理事

平成25年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	永田 吉治	箕面ライオンズクラブ	会長	地域の福祉関係者
副理事長	千馬 外代美	箕面市肢体不自由児者父母の会	会長	地域の福祉関係者
理事	西尾 英子	箕面手をつなぐ親の会	会長	地域の福祉関係者
理事	平野 クニ子	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	井上 義人	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	小山 隆	同志社大学社会学部	教授	学識経験者
理事	吉田 功	社会福祉法人暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	地域の福祉関係者
理事	森 輝和	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
理事	中井 正明	箕面市健康福祉部	副部長	行政関係者
理事	川端 崇且	箕面ロータリークラブ	理事	学識経験者
理事	亀谷 雅彦	社会福祉法人あかつき福祉会	あかつき園園長	施設長

## (2) 監事

平成25年3月31日現在

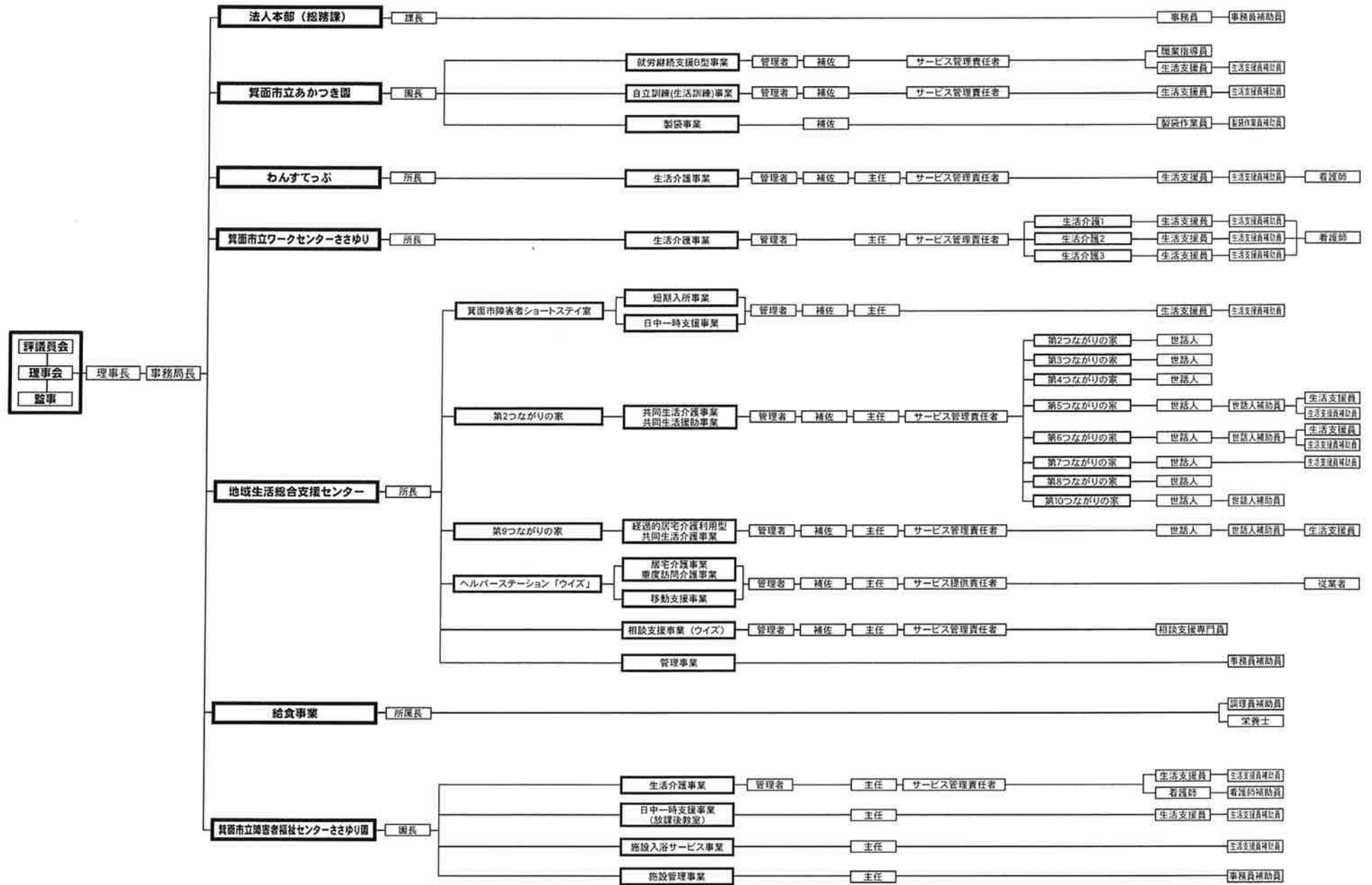
役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
監事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	監事	学識経験者
監事	谷口 あや子	箕面市会計室	会計管理者 兼 室長	行政関係者

### (3) 評議員

平成25年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	井上 隆志	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	常務理事 兼 事務局長	地域の福祉関係者
評議員	甲斐 節男	西南小地区福祉会	西南小地区福祉会 会長	地域の福祉関係者
評議員	石田 宇佐美	箕面市民生委員児童委員協議会	地区委員長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	一般財団法人箕面市障害者事業団	就労支援課 課長	地域の福祉関係者
評議員	久代 美津恵	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	高橋 栄子	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	地域の福祉関係者
評議員	中瀬 光夫	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団	特別養護老人ホーム 白鳥荘 荘長	地域の福祉関係者
評議員	満石 和彦	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団	大阪府立明光ワークス 所長	地域の福祉関係者
評議員	植田 恵美子	社会福祉法人 息吹	理事長	地域の福祉関係者
評議員	山中 剛司	箕面ロータリークラブ	社会奉仕委員会 委員長	学識経験者
評議員	爲永 順子	箕面商工会議所	副会頭	学識経験者
評議員	中元 正文	大阪府立豊中支援学校	進路部代表	学識経験者
評議員	佐野 賢	大阪府立箕面支援学校	進路指導部 副主担	学識経験者
評議員	日根 真理	箕面市西南小地区青少年を守る会	会長	学識経験者
評議員	浅岡 建三	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
評議員	多田 育雄	NPO法人ラポール	監事	学識経験者
評議員	後藤 統雄	箕面市赤十字奉仕団	常任理事	学識経験者
評議員	江口 寛	箕面市人権文化部人権国際課	課長	行政関係
評議員	長谷川 千波	箕面市健康福祉部障害福祉課	課長	行政関係
評議員	奥田 勝久	箕面市教育委員会教育推進部人権教育課	課長	行政関係
評議員	加藤 隆之	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者福祉センターささゆり園	園長	地域の福祉関係者
評議員	古川 伸吾	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者自立支援センター (箕面市立ワークセンターささゆり)	所長	地域の福祉関係者

# 16. 平成24(2012)年度組織図



## 17. 平成24(2012)年度職員内訳

平成25年3月31日現在

部局名	正規職員	支援職員	臨時職員	合計
法人本部	2名	3名	1名	6名
あかつき園	2名	5名	6名	13名
わんすてっぷ	1名	2名	1名	4名
ワークセンターささゆり	8名	8名	30名	46名
障害者福祉センターささゆり園	3名	5名	17名	25名
地域生活総合支援センター	4名	15名	11名	30名
厨房	0名	1名	6名	7名
合計	20名	39名	72名	131名

注1) 法人本部の支援職員には、障害者職員を含む

注2) あかつき園には、製袋担当職員を含む

注3) 厨房の支援職員は、障害者職員

注4) 臨時職員数には、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注5) その他、登録ヘルパー約55名(実質稼働者数)